

Topics ■トピックス [学内情報]

“ISLAM and INTERNATIONAL SOCIETY”

●国際シンポジウム

「イスラムと国際社会」を開催

— 関大で深めるイスラム・アラブ諸国への正しい理解 —

関西大学では、9月14日～16日の3日間、千里山キャンパス尚文館において、国際シンポジウム「イスラムと国際社会」を開催した。

2011年初頭より大規模な民主化運動「アラブの春」が発生した中東及び北アフリカ諸国では、各国で政治的に不安定な状態が続く中、2014年6月にIslamic State (IS)の成立が一方向的に宣言された。このような政治的な動きは日本にも影響を及ぼしており、2015年の邦人人質の拘束及び殺害といった事態から、日本がISの標的国に含まれていることも明確になった。

こうした状況を踏まえ本学は、「日本人に少しでも正確なイスラム像を提供し、現在の世界における日本の立場を明確にするためには、アラブと日本の専門家が議論する場を設定することが大学の使命である」と考え、今回のシンポジウムを企画。イスラム・アラブ諸国についての正しい理解を深めることを目的に、日本国内やアラブ諸国の第一線で活躍する研究者らを招いて、さまざまな観点からの報告やパネルディスカッションを行った。

各日のテーマは「イスラム戦争法及び国際法から見たIslamic State」「アラブの春は何をもたらしたか…とりわけ女性の地位に現れた変化」「世界遺産及び文化遺産の保護」。アラブ首長国連邦(UAE)・ザイード大学のアフメド・アル・ダウーディ氏による「Islamic Stateとは—テロリストのパラダイム」をはじめとする数々の報告に、来場者は熱心に耳を傾けた。



▲(左)葛原力三法学部長による開会の辞 (右)「エジプト遺跡の保存への政治状況の変化の影響」について語る吹田浩文学部教授



パネルディスカッションの様子

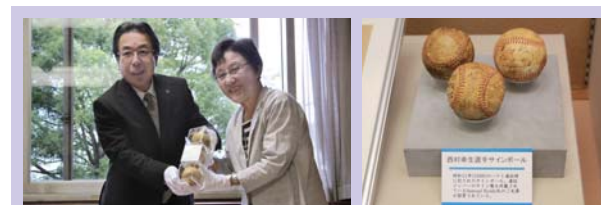


○年史資料展示室 企画展を開催

関西大学野球部100年

100年の軌跡 新時代の幕開け

～ 関大野球部100年の軌跡と「79年目の奇跡」～



(写真左) 楠見学長にサインボールを提供するジョイスさん(右) (写真右) 79年前のハワイ遠征時に少年に贈られたサインボール

関西大学では、10月1日～2016年3月末日まで、千里山キャンパス・簡文館において、企画展「100年の軌跡 新時代の幕開け 関西大学野球部100年」を開催している。

体育会野球部は、1915(大正4)年に創部され、2015年で創部100年の節目を迎えた。これを祝し、今年1月には大学関係者、野球関係者、野球部OB及び現役部員ら約550人が集い、記念式典が執り行われた。

今回の企画展では、野球部100年の歴史を、創部、海外遠征、名選手を輩出した黄金時代、プロ野球での活躍など、さまざまな展示品とトピックを通じて振り返る。

また、10月5日には本学OBで戦前のプロ野球・大阪タイガースで活躍し、野球殿堂入りも果たした故・西村幸生氏のご子孫、ジョイス津野田幸子氏が、79年前のハワイ遠征時に関西大学野球部のメンバーが現地の少年に贈ったサインボール3個を持って来学。

会場には、そのサインボールをはじめ、元阪急ブレーブス監督の上田利治氏が学生時代に使用していたキャッチャーミットや、阪急ブレーブスで活躍した山口高志氏のユニフォーム等が展示されているほか、野球部の新・旧ユニフォームも見ることができる。

※日曜・祝日、大学が定めた休日は休館。詳細は関西大学年史編集室まで(06-6368-1062)



■79年目の奇跡とは
西村幸生氏をはじめとする関大野球部は、1936年のハワイ遠征で、お世話になったバットボーイにお礼のサインボールとサイン帳を贈った。2002年、このサイン帳のコピーが突然ハワイから関大に届いた。その後、2015年1月の記念式典で、サイン帳の存在を知ったジョイス津野田幸子さんがハワイで尋ね人広告を出したところ、医師であるサミュエル・コイデ博士が名乗り出て、79年間大切に保管していた西村氏らのサイン入りボールを幸子さんに届け、関大野球部の当時の活躍などを伝えた。

●人間健康研究科博士課程後期課程を開設

健康・スポーツ研究を通じて、人間社会の健康と福祉に寄与

人間健康研究科は、2016年4月、新たに博士課程後期課程を開設する。人間健康学部と人間健康研究科は、地域貢献型の学部・研究科として設置され、堺市や周辺自治体との密接な連携のもとに、専門教育ならびに各種の支援・連携事業を展開する新たな大学のあり方を提案し、実績を上げてきた。博士課程後期課程の開設は、学部と修士課程(平成28年4月から博士課程前期課程)の地域貢献の実践を踏まえ、その性格を有しながら、より高度な研究教育を行うことが目的。体育関係を軸に、体育学や健康科学、教育学、社会学、社会福祉学、文化人類学等の研究領域を連携させ、学際的かつ実践的な教育と研究を行うことで、学社連携の教育や、高齢者や障害者等も参加できるアダプテッド・スポーツ、市民活動や地域福祉の活性化等に寄与する人材の育成に取り組んでいく。

文部科学省 平成27年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 本学の研究プロジェクトが採択

文部科学省が重点的かつ総合的に補助を行う平成27年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に、本学より申請したプロジェクト「3次元ナノ・マイクロ構造の創成とバイオメテックス・医療への応用」が採択された。本事業は、大学の経営戦略や研究戦略に基づき、各大学が特色を生かした研究を実施するために、国がその研究基盤の形成を支援するもの。募集は「研究拠点を形成する研究」「大学の特色を活かした研究」「地域に根差した研究」の3つの研究観点で行われ、本学からはこれまでに22のプロジェクトが「研究拠点を形成する研究」として選定されている。

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択されたプロジェクト	
〈研究期間〉	平成27年度～31年度(5年間)
〈研究組織名〉	3次元ナノ・マイクロユニット
〈研究代表者〉	システム理工学部 教授 青柳誠司
〈研究プロジェクト名〉	3次元ナノ・マイクロ構造の創成とバイオメテックス・医療への応用

第38回関西大学統一学園祭を開催 > 一祭合祭

2015年度の関西大学統一学園祭が、11月1日から4日まで、千里山キャンパスで開催された。今年のテーマは「一祭合祭」。これは「一切合切」という言葉から創ったもので、学園祭を約3万人の関大生全員が団結して創り上げ、関大生の魅力を発信できる場、関大生の力を感じてもらえる場にしたという思いが込められたもの。

今年も、多くのサークル及びゼミによる研究発表や模擬店、フリーマーケットをはじめ、ステージ企画、講演会等、さまざまなイベントや催しでにぎわいを見せたほか、11月1日にはダレノガレ明美さんのトークショー、2日にはダイアン、笑い飯、和牛によるお笑いイベント、3日にはコブクロを迎えてライブを開催し、連日、会場は大いに盛り上がった。さらに、統一企画構成委員会が運営する3大イベント「K.U.ROCK FEVER」「Kandai Dance Festival」「LAUGH & PEACEお笑い王決定戦」が今年も観客を巻き込んで盛大に行われた。また、4日は化学生命工学部 河原秀久教授による講演会、夕方からは、悠久の庭で「後夜祭」が開催され、感動的なフィナーレを迎えた。



▲統一学園祭は約700人の学園祭実行委員の学生たちが運営した